

第55回 大月市生涯学習推進大会 報告書

日時 平成29年3月5日（日）於
会場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

【見つめよう！ 地域の力】 ～粹な心で豊かな暮らしをパートII～



まちづくり
ひとづくり



いつでも、どこでも、だれでも学べる
大月市教育委員会



第55回大月市生涯学習推進大会 実施要項

1. 大会テーマ 【見つめよう！地域の力 ～粋な心で豊かな暮らしをパートⅡ～】

2. 大会趣旨

小さなことでも何かを始めてみたり、学んでみたり、活動したりすることが生涯学習の始まりであり、その実践や学んだことを生かすことで心の充実感や豊かな暮らしへと繋がっていき、それが活力のある大月市を創りあげていくこととなります。

本大会では、地域の活動団体の事例発表、また、将来を担っていく学生の研究発表を通して、地域住民が世代間で繋がり、お互いに刺激を受け、活力を得て、いつまでも心豊かに暮らすことを目指し大会趣旨とします。

3. 主 催 大月市教育委員会・大月市社会教育委員会・大月市公民館連絡協議会

4. 日 時 平成29年3月5日（日）午後1時30分 開会

5. 会 場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

6. シンポジウム（第1部：パネリスト発表 第2部：会場との対話「意見・情報交換」等）

生涯学習の実践と成果の活用、学習に踏み出すための情報の提供や交換から生涯学習への意欲を高める。

○コーディネーター

大月市立大月短期大学准教授 塙 武郎 氏

○パネリスト

・佐藤 実 氏（西山扇山部分林管理委員会）

・志村 勝巳 氏（梁川体育会）

・和田 佳乃 氏（大月短大生・塙ゼミ）

7. その他

・展示等 社会教育関係団体の紹介及び出店（1階 ロビー）

各地区公民館・各社会教育団体の実施事業写真展（1階 ギャラリー）

中央公民館利用団体作品展（2階 市民ギャラリー）

・アトラクション 合唱（桂川グリーンカジカ）

8. 時間設定	出 店	12:00～
	受付・開場	12:45～
	アトラクション	13:10～13:25
	開会行事	13:30～14:00
	シンポジウム	14:00～15:55
	閉 会	～16:00

🐼 シンポジウム “さあ☆始めてみよう！”

小さなことでも何かを始めてみたり、学んでみたり、活動したりすることが生涯学習の始まりであり、その実践や学んだことを生かすことで心の充実感や豊かな暮らしへと繋がっていき、それが活力のある大月市を創りあげていくことになります。

本大会では、地域の活動団体の事例発表、また、将来を担っていく学生の研究発表を通して、地域住民が世代間で繋がり、お互いに刺激を受け、活力を得ていつもでも心豊かに暮らすことを目指し大会趣旨とします。

★ コーディネーター



はなわ たけお
塙 武郎 氏

大月市立大月短期大学准教授

北海道生まれ。専門は財政学・地方財政、教育政策、地域公共政策（人口減少集落活性化、地域交通まちづくり、都市型PFIなど）。筑波大学大学院博士課程社会科学研究科経済学専攻修了、博士（経済学）取得。米国アメリカン大学（在ワシントンDC）、オレゴン大学大学院に留学、南オレゴン州立大学フェローに就任、八洲学園大学生涯学習学部専任講師、准教授を経て、2014年より現職。東京大学、法政大学、日本大学、國學院大学等で講師兼務。文部科学省有識者会議「教育財源確保策に関する勉強会」委員、大月市教育委員会「コミュニティ・スクール導入推進委員会」委員を務めるほか、北海道、新潟県、福島県、山梨県等の自治体から依頼を受けて地域活性化の調査・政策助言を行う。近著に『アメリカの教育財政』『アメリカ経済とグローバル化』『アメリカ大都市の交通財政』『北海道倶知安町におけるグローバル不動産投資と自治体経営』『北海道の池田モデル』ほか多数。特技・趣味はアルペンスキー、バレーボール、弓道、ドラム、写真撮影。

★ パネリスト



さとう みのる
佐藤 実氏

西山扇山部分林管理委員会

大月市の多くの面積を占める山を上手く活用する事が町に元気を取り戻す一つの大きな要素です。富士の扇山管理委員会は20年前から扇山の総合的な活用についてビジョンを作成、取り組んできました。広い自然の整備や木材の利用、水源、地球温暖化防止、登山者の望む山、山菜等の活用です。私が扇山に属して25年、広い自然が対象ですから長い年月をかけての作業です。昨年で開伐、植林、山頂へのキャタピラー道、つつじ群生地、山椒の里、地域神社の修復材の提供、橋太郎伝説トレイルラン支援、地元小学校への支援等、委員会の山への取り組みは具体的な実績を残してきました。つつじ、山椒、タラの芽、蕨等の群生地は山の作業の中で見つけた山の産物です。今後、更に活動を発展させます。山に関心のある方は扇山のイベントに是非参加してみてください。私たちの経験は惜しみなく提供します。仲間を増やし町を元気にしたい！

★ パネリスト



しむら かつみ
志村 勝巳氏

大月市体育協会 梁川体育会

梁川町体育会の事務局員を担当して12年になります。現在は体育会長として地域のために一生懸命頑張っております。わが町も少子高齢化の波が押し寄せ、年々運動会や会の運営が人材不足のため活動が難しくなっています。しかし、スポーツを通じて色々な事を勉強させていただいています。私は人と人の触れあいを大切に、子どもが育つ魔法の言葉など著名人の名言を参考に日々勉強し努力しています。わが町では、毎年1月2日に新春マラソン大会は第46回を迎え町内外から大勢の方に参加していただきました。昨年の9月に発足したレクリエーションサークルは体育でもない遊びでもないサークルです。本日はスポーツで汗をかく喜び、コミュニケーションの大切さについて考えたいと思います。

★ パネリスト



わだ よしの
和田 佳乃氏

大月市立大月短期大学 塙ゼミ

2016年3月、山梨県立甲府東高等学校を卒業し、同年4月、大月短期大学経済科に入学し、今日に至ります。3年前、父親の単身赴任先のオランダでの滞在を通じてヨーロッパの都市景観や都市計画に興味を持ち始めました。現在、本大会コーディネーターを務め、財政学やまちづくり論を専門とされる塙武郎准教授のゼミに所属し、日々ご指導いただいております。塙ゼミでのご指導と研究を通じて大月市の魅力や地域資源、また「こんな街だったらさらに良いな」という理想も少しずつ見えてきました。本日は大月短期大学の学生代表として、いつまでも心豊かに暮らせる、活力ある大月市の未来に向けたアイデアを提案し、今後の研究課題を明確にできれば幸いです。

第55回大月市生涯学習推進大会 シンポジウム記録

■ 趣旨説明 【大月市社会教育委員 安藤 睦美】

ここで、シンポジウムの開始に先立ちまして、大会の経緯と趣旨について、簡単にご説明いたします。

はじめに経緯についてでございますが、今大会は5回に渡る社会教育委員の会議において、大会テーマや内容を決めて参りました。会議では、各委員から提案された大会内容案を関連する課題ごとにまとめ、それぞれの提案について、社会教育との結び付きを考えながら検討を重ね、今大会のテーマ「見つめよう！地域の力」～粋な心で豊かな暮らしをパートⅡ～及び内容が決定いたしました。

続いて、大会趣旨についてでございますが、お手元のプログラムに記載してありますとおり小さなことでも何かを始めてみたり、学んでみたり、活動したりすることが生涯学習の始まりであり、その実践や学んだことを生かすことで心の充実感や豊かな暮らしへと繋がっていき、それが活力のある大月市を創りあげていくこととなります。

本大会では、地域の活動団体の事例発表、また、将来を担っていく学生の研究発表を通して、地域住民が世代間で繋がり、お互いに刺激を受け、活力を得て、いつまでも心豊かに暮らすことを目指し大会趣旨といたします。



■ シンポジウム開始

【埴コーディネーター】

皆さん、こんにちは。大月市立大月短期大学准教授の埴と申します。本日はコーディネーターを務めさせていただきます。シンポジウムの進め方についてご説明いたします。シンポジウムは1部と2部に分かれておりまして、1部はパネリスト3名で各17分ほどの発表になります。時間で言うと1時間ほどで15時ぐらいまでです。2部は1部プレゼンを踏まえてのパネル討論、会場との対話、質疑応答になります。ステージ上の4人でディスカッションを行います。そして、その後、会場との対話、意見交換、情報交換等を行う予定ですので、皆さん感想ですとかご意見、提言などをいただければと思います。最後が15時55分と約2時間と長くなりますが、お付き合いいただきたいと思います。一緒に大月市の明日を考えていきたいと思っております。

第55回 大月市生涯学習推進大会
平成29年8月5日（於）大月市民会館

シンポジウムの進め方

第1部 パネリスト発表（3名、各17分）
14:00～15:00

第2部 パネル討論、会場との対話
15:00～15:55

今年のテーマ

**「見つめよう！地域の力」
～粋な心で豊かな暮らしをⅡ～**

パネル報告(3名)では、

- ①森林資源
- ②スポーツ振興
- ③世代間交流

の各視点から、大月市の未来、自分に関わるまちづくりの問題として考え、報告します。

私が言うのも何なのですが、昨年好評だったということで同様のテーマにパートⅡで、「見つめよう！地域の力」～粋な心で豊かな暮らしをパートⅡ～になります。パネル報告は今回も3名の方にパネリストを依頼して、一人目の佐藤さんには森林資源の観点から、二人目の志村さんにはスポーツ振興の観点から、三人目の和田さんには世代間交流の観点から報告してもらいます。大月市の未来に関わる自分に関わる町づくりの問題として考えていただきたいと思います。

我々今まで、三回の勉強会を行ってきました。市の職員の方や中村社会教育委員会会長さんにも加わっていただきました。私自身も勉強してまいりました。

それでは早速、報告に入っていきます。まず、佐藤実さんです。西山扇山部分林管理委員会の副委員長をなさっています。「森林を活用し、元気な大月に」ということで富浜町にある扇山での活動報告になります。それでは、よろしくお願いいたします。



第1部 パネリスト発表

【パネリスト 佐藤 実 氏（西山扇山部分林管理委員会）】

それでは発表させていただきます。富浜公民館の推薦を受けまして、今日この場で発表させていただきます。扇山管理委員会の佐藤実と申します。よろしくお願ひします。扇山も改革して20年、森林の整備、活性化のイベントなど着実に実績を残してきています。鳥沢駅のトイレも今夏に出来ることになりました。この発表は丁度良い機会です。私たちは、さらに山、森林の活用について市内はもとより外にも発信していきたいと思っています。私たちの開くイベントにみなさんが参加していただくことが、大月の森林を理解し、元気を取り戻す第一歩です。

最初は、扇山を南側から撮った写真です。矢印がだいたい、ずれてしまっていますが簡単な位置だけ説明いたします。扇山はこういうふうにとどった山になっています。高さは1,138メートル、左にウェルネスパークがあります。それで真ん中に大月カントリー、右の方にエコビレッジがあります。談合坂インターと書いてありますが、ここは談合坂サービスエリアになります。近い将来、ここはスマートインターができると聞いています。私たちはこの山全体を管理していて、登山道がこういう風にあって東側にもこうあって、今日お話しをする水汲み場があって、山椒の里を作りました。ツツジ群生地が二つありまして、そしてこの山を利用して山のマラソン、トレイルランをやっていますよ、ということです。この談合坂のスマートインターができますと必然的にお客さんがここで降りて、扇山に降りてくる、そして大月に向かう。上野原に向かうより大月に向かうほうが多いんです。ですから、このスマートインターができれば必ず大月の活性化に繋がると思います。そうしますと、この山谷から国道にかけてですね、この入口を改善する必要があると思います。

次に私たちの団体を紹介したいと思います。富浜町に大体1,200戸の家がありまして、そのうちの1,100戸が扇山管理委員会の会員です。それで土地は県有地ですね、県有地の入会権を主張している団体です。予算規模は管理費、補助金、協力金ということで350万円程度。面積は300ヘクタール、扇山の南面と西面を

森林を活用し元気な大月に

富浜町扇山管理委員会の事例

扇山、扇山管理委員会とは

・鳥沢駅北側に位置する山(1138m)



私たちの団体（組織、財源、管理面積）

- ・富浜町住民世帯のほとんどが会員（管理費）1100世帯
- ・県有地の入会権主張団体（部分林契約）7:3
- ・予算規模は約350万円程度
- ・管理対象面積300ha（扇山の南面、西面）
- ・管理棟（約40畳、40人程度利用可） 倉庫2、事務所（富浜支所内）
- ・キャタピラー（材木搬出車両） チェーンソー10台、刈払機10台、ヘルメット35、パソコン1台
- ・役員6名、委員30名
- ・広報年2回発行、見なし法人（国税処理）

扇山管理委員会の事業 ①造林

人工林の間伐、松くい虫被害地の植林全て対応、今年が最後の植林

- ・扇山管理委員会の理念
「地元の自然は地元が守る」
行動の基本は「汗をかき、知恵を出す、現場だけが人を出さない」
- ・①造林事業 植林、下刈、枝打ち、間伐、搬出、作業道の整備、
山頂稜線の草刈、測量、申請、交渉
これまでの20年間で一切の事故を起こしていない
どんな経験や能力が期待されるか
初心者：働くことが好き、山登りが好き、自然の中にいることが好き
指導者：大木の伐倒、チェーンソー、刈払機の使用経験
奥が深く、危険を予測し、その場で指摘する資質が要求される

造林事業 伐採、搬出 植林、下刈、枝打ち 測量

50年の丸太1本市場で1000円、
3ヶ月で新品となるスライ1個と同じ



合わせて300ヘクタールということです。設備は管理棟、約40人が入れます。そして、倉庫が2つ、事務所が富浜出張所の一部を借りています。材木搬出用のキャタピラー、チェーンソー10台、刈払機10台、ヘルメット35個、パソコン1台。それから、役員6人、委員は各地区から出た30人で成っている組織です。広報は年2回発行して、国税処理している団体です。

事業についてですが、造林事業とイベント事業で8割になります。この造林事業がメインになります。自慢できることはですね、今まで20年間、人工林の間伐に手を入れています。松くい虫の被害地をすべて植林していて、今年が最後の植林になります。20年前に改革をしてビジョンを作りまして、「地元の自然は地元が守る」という理念でやっています。行動の基本は「汗をかき、知恵を出す、現場で人が出さない」、田舎ですから一生懸命働いて頭も使おうと、そして、現場で事故を起こさないと、事故を起こしたら私たちの団体は消滅してしまうと、こういうつもりでやってきています。そして、造林の仕事には、木を切ったり、木を植えたり、草刈りをしたり、登山道の整備をしたり色々ありますけれども、細かい説明は時間がないので省きます。今まで20年間一切事故を起こしていないことが自慢できることです。どんな人が向いているかということ、簡単にいうと山が好きで働くことが好きであれば入ることができると思いますけれども、4、5年経験してもらえれば充分指導者になれると思います。ただ、注意していただきたいのは、2年目くらいで慣れてきたくらいが危ない時期です。

次のこの四つの写真ですが、右上の写真、5ヘクタールくらいの広さの間伐を進めていて、扇山の林道へ持ち出したところの写真です。ここにも書いてありますように、1本1,000円です。この実態はいかに林業を経営するのが大変かわかりますよね。これをベースに間伐材のバイオマス発電への燃料はどうかを考えてもらえればと思います。あとの写真は女性が参加した草刈り、町の人が出た草刈り、自前でやっている測量です。

次はイベント事業になります。多くの人に森林に関心を持ってもらうための事業を行っています。草刈りや枝打ち。登山は高尾山に多くの登山者がおりますよね、その人たちを扇山に呼びこもうと。そして、つつじ群生地、山椒の里の整備。これは女性が葉っぱを摘むという参加

扇山管理委員会の事業 ②イベント

多くの人に参加してもらい山への関心を高める

・イベント事業

植林、下草刈、枝打ち
扇山登山、つつじ群生地散策、山椒の里(葉、実の摘み取り)
植林地、つつじ群生地、山椒の里の整備作業
学校林、木工教室(小学校)指導、
トレイルラン支援、キャリア教育支援

どうすれば参加可能か

募集をします、有料のイベントもあり(富浜は回覧)、大月市は広報に載せません
登山等はメールで連絡する団体もあります

イベント事例 ①つつじ群生地

花のある山を作る
自生のつつじ約3000株
20年前に人力で散策道を入れる
現在2ヶ所整備
女性も参加し易いイベント



イベント事例 ②山椒の里

自生の山椒が沢山群生これを活かす「西は京都の鞍馬山、東は大月扇山
山椒の葉、実とも欲しい人多い
時期に沢山摘み冷凍保存
山椒の△評判



お祭りの日山椒の△山谷地区で復活 扇山が120個無償提供、好評。継続する



扇山材の無償提供 神社等改修

山谷地区 慶王堂

鳥沢地区 福地八幡神社 入り口階段材、床補修材



しやすい事業です。そして、学校での指導、トレイルラン支援。このようなイベントは大月市役所の産業観光課で広報に掲載してもらいます。富浜の人には回覧で回ります。

次はツツジ群生地です。二か所あります。それで中央登山道の右側に2,000本くらいあります。小高い山を四つ登っていくと、8合目に出ます。

次は山椒の里です。管理棟の近くの杉林を整備し、自生の山椒の木がたくさんあります。若葉も摘み取って帰れます。7合目付近には群生した山椒の木、3時間くらいで2山取ってきました。湯がき冷凍保存や地域のイベントに無償提供し、宣伝しています。

次の写真は山椒のおにぎりをお祭りの時に120個無償提供しています。次の写真は扇山材の無償提供です。福地八幡神社などの改修のための材木を提供しています。私たちが地域のために行っています。

次の写真は鳥沢の福地八幡祭りの神輿です。この神輿の担ぎ棒も扇山で提供したものです。横に写っているのが鬼島委員長です。

次は学校の木工教室です。扇山の材木を使って、地元鳥沢小学校で木工教室を年3回、学校林の草刈り指導、扇山登山の支援を行っています。私たちは地元の子どもたちをたくましくしよう、を目標に指導しています。例えば草刈りの時、鎌をピカピカに研いでもらったりしています。もちろん安全面に注意してやっています。次の絵はアカデミックな話で山梨県からもらった資料ですが、人が息をするには23本の木が必要ですよ、現代の人が文化的な生活をする、普通に家に住んで、電気を使って、車に乗ってという生活をするには460本、0.5ヘクタールの木が必要ですよ、という絵です。0.5ヘクタールはだいたい鳥沢小の運動場くらいの大きさになります。計算すると扇山の木で鳥沢の家は約600戸しかまかなえません。ですので、扇山の下側にある民有林の整備も必要になってきます。次は扇山の登山です。先ほども言いましたとおり、高尾山の登山者を扇山、大月へ呼び込もうということです。次は桃太郎伝説トレイルラン支援です。扇山の東側登山道はキャタピラーが登れるようになっているので、飲料、トイレなどを山頂に運ぶことができます。都留から上野原まで山頂にキャタピラーで荷物を運ぶのは扇山だけになります。鳥沢小の扇山登山の時にも持ち上げます。次は水源の維持です。これは、ウェルネスパークに上がっていく所に出ている水汲み場です。あと、女性が参加する枝打ちです。充分に山の仕事も女性ができる、ということを経験してもらう。女

鳥沢福地八幡祭り神輿担ぎ(委員長と)



地元学校支援 ③木工教室 学校林下草刈 扇山登山

- ・扇山の材木の利用
- ・子供達を遅くする
- ・頭を使って考える
- ・時間内に完結する
- ・危険を予測する
- ・鎌は研ぎ切れる道具



現在の生活をするにはどの程度の森林が必要か



④扇山登山(新緑とつつじ、紅葉、富士山絶景)

登山道、山頂、後継整備された山
年間登山客 約2万人(扇山管理委員会推定)
東京に近く、初心者向けの山
(濃緑の高尾山の登山者を呼び込める)



桃太郎伝説トレイルラン支援

- ・全国から500名参加 3年目 扇山山頂
- ・イベント会社(スポーツエイドジャパン)主催 大月市後援
- ・扇山は大月活性化の為全面支援
- ・飲料、トイレ、キャタピラーで山頂へ



性が参加するイベントにはトイレが必須になってきます。便座式の簡易トイレを設置して配慮しています。次は行政との話し合いです。右側は石井市長との写真です。私たちは、自主財源で山に道を入れて、行政のいろいろなイベントにも協力しているわけですから、私たちの要求もしていくわけです。具体的な話を少ししますが、山梨県とどんな交渉をするかということ、山頂から富士山が見にくいという登山者からの要望がありますと、山頂のからまつを二本切らなければならない。富士東部林務環境事務所に相談に行きます。でも、山梨県のルールだとそれはできないと。どうすればできるんですかと聞くと、扇山さん、買い取ってくださいと、所有権の割合が県が3で私たちが7ですから、入札をするんです。なかなか県有林ですから難しいんですよ。次は課題になります。私が72歳です。扇山の役員みんなが70歳代が中心です。ですから次を担う60歳代の人をぜひとも5年以内に育てたいと思っております。あと、神社の修復に使う木の製材をするというお話をしたんですけど、初狩まるたの製材所がつぶれちゃっています。今、大月市はバイオマスの工場を進めているが、それより製材所が一つくらいないことには、森林の活用ということではできません。それから、次に広葉樹の活用を考えていきたいと思えます。それから今は、簡易式のトイレを運んでいますが、固定式のトイレを山頂に作りたと思っています。それから、たくさんのつつじ群生地がありますが、冬の温暖化、春先の寒さ、つまり冬が暖かくて芽が出てしまい春の寒さで凍結するということが起きています。私たちは、地球温暖化をひしひしと感じています。だから、森林を守るということは私たちからすると国宝と同じ、国を守ると同じことだと思っています。ですから、県がもっと森林にお金をつぎ込まなければいけないのではないかと考えています。以上です。

⑤除伐・枝打ち 水源の維持
扇山の水汲み場

- ・女性も参加の枝打ち
- ・便座式の簡易トイレ作業現場に設置(参加女性へ配慮)

行政との折衝 山梨県、大月市

山梨県で山の総合活用のモデルに扇山になると県、市もやることもある、森林団体が衰退の時、山梨県では一番活発な団体、交渉事は担当から積み上げ書面で要請、着地なき交渉はない、扇山が事業を展開する上で滝沢駅のトイレは絶対必須

課題など

- ・次を担う人材の開拓必須(公民館、消防団、神輿支援、PTA支援しているが)、イベント参加、現場作業に参加までに至っていない
現役世代は危険、きつい、汚い仕事には関心がないのか!
- ・初狩まるたの製材所も無くなった、雪折れ丸太を有効に使いたい
木質チップ工場より製材所が優先する
- ・広葉樹(檜、栲)の活用(炭、薪、椎茸材、鏝節燻製材等)
- ・山頂に固定トイレは水源の水質維持の為必ず作る(便袋方式)
- ・つつじ群生地 冬の温暖化で春先の寒さで花芽凍結
地球の温暖化は進行している、国土を守るつもりを取り組みが必須

【埧コーディネーター】

佐藤さん、ありがとうございました。力説でわかりやすかったと思います。森林資源の多面的、総合的な評価をされたように、私自身は考えました。ちょっと時間が押してますので、確認程度ですけど、最後の課題の所で書かれていた人材の確保というのは非常に重要で、かつ深刻であるということだったと思いますけれども、後のディスカッションの議論に上がるかもしれませんが、森林の経済的な価値が下がってきて衰退の原因となり生業としてなかなか難しいところがあるということでしょうかね。そのへんが壁になっているんでしょうかね。



【パネリスト佐藤 氏】

やはり、お金になると人は集まりますよね。そこが基本的な原因になると思いますけれども、今、仕事を持っている人は忙しいですよ。それで、これから山にいろいろ関心を持ってもらうには女性が参加してもらったり、それで山椒の里なんかをやっているわけですけど、女性が山に関心を持ってもらえれば、男性もきっとそれについてくるのではないかとそんなつもりでいます。



【埧コーディネーター】

なるほど。ありがとうございました。この後のディスカッションの材料になると思います。

【埧コーディネーター】

次のパネリストに移らさせていただきます。それでは続きまして、志村勝巳さんです。大月市体育協会の梁川体育会の会長さんをされていらっしゃいます。先ほど12年間ご活躍されているということでした。スポーツを通しての地域活性化ということでプレゼンテーションよろしくお願い致します。

【パネリスト 志村 勝巳 氏 (梁川体育会)】

スポーツを通しての地域活性化

大月市体育協会
梁川体育会

スポーツとは??

スポーツ ~~≠~~ 体育

スポーツ

- ・元の言葉は、ラテン語で「デポラターレ」
- ・日常生活の労働から離れた自由な遊びの時空間
= 余暇、レジャー、祭り、遊びなど

プロゴルファー 青木 功 氏

「盗んでも学んだものは忘れることはないが、一方的に教わったものはすぐ忘れてしまう」

競馬騎手 武 豊 氏

「努力とか、根性とかより、欲です」と言っています」

只今、紹介して頂きました、志村勝巳と申します。現在、梁川体育会の会長として活動をしています。本日、パネリストとして発表できることを大変光栄に思います、また深く感謝しています。誠に有難うございます。

今日は、スポーツで汗をかく喜び、コミュニケーションの大切さ、地域の活性化について発表いたします。はじめに、スポーツとはどんな意味なのでしょう？

日本では「スポーツ=体育」と考える人も多いようです。しかし、これは大きな間違いだそうです。では、スポーツはどんな意味なのでしょう？スポーツの語源、元の言葉はラテン語でデポラターレと言い、後にスポーツと変わっていきました。スポーツは日常生活の労働から離れた自由な遊びの時空間、つまり、余暇、レジャー、祭り、遊びといった意味のようです。スポーツや体育をやる上で、役立つこんな名言や言葉がありますので紹介します。山本五十六大将の有名な言葉は皆さんご存知と思いますが、やって見せて、聞かせて、やらせて見せて、褒めてやらねば人は動かさずという言葉がありますが、今日は他の名言を紹介します。プロゴルファーの青木功さんは「盗んでも学んだものは忘れる事はないが、一方的に教わったものはすぐ忘れてしまう」競馬の騎手、武豊さんは「努力とか、根性とかより、欲です」と言っています。そして、ドロシー・ロー・ノルトさんの魔法の言葉は非常に大人も役立つ言葉だと思います。

ドロシー・ロー・ノルト 氏

- ・とげとげした家庭に育つと子どもは、**乱暴**になる
- ・ほめてあげれば、子どもは、**明るい子**に育つ
- ・認めてあげれば、子どもは**自分を好き**になる
- ・見つめてあげれば、子どもは**頑張りや**になる
- ・和気あいあいとした家庭に育てばこの**世の中はいい所**と思えるようになる

①グランドゴルフ
第11回ジュニアグランドゴルフ発祥地大会



「とげとげした家庭に育つと子どもは乱暴になる」
 「褒めてあげれば、子どもは明るい子に育つ」
 「認めてあげれば、子どもは自分を好きになる」
 「見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる」
 「和気あいあいとした家庭で育てばこの世の中いい所思
 えるようになる」

このような言葉を考えながらいつもやっています。これから、私たちの活動について、ご紹介したいと思います。

まず、グランドゴルフについてですが、第11回ジュニアグランドゴルフ発祥地大会、山梨県予選大会（山梨県知事杯）が昨年5月に開催され、梁川町から見事2名の小学生、小学6年生の志村美奈さん、3年生の佐々木蒼くんが6人の選抜に選ばれました。そして、8月6日に鳥取県のグランドゴルフふる里公園、潮風の丘とまりにおいて全国大会が行われ、山梨から3人1組で2組の代表選手が出場しました。富士山チーム、北岳チームは素晴らしい戦いぶりでなんと準優勝、三位を独占、2人の入った北岳チームは準優勝いたしました。

優勝は地元鳥取のチームでした。なんと皆さん、今写真に出ている子たちが山梨県のグランドゴルフ協会主催のポスターになりました。5月14日に開催されますので、ぜひみなさんもお子さんやお孫さんと一緒に参加してはいかがでしょうか？

7月25日には子ども花火大会を開催いたしました。現在、梁川には24人の小学生がおりますが、地域のご厚意で盛大に開催できました。この花火大会には子どもから高齢者の方など参加していただき、楽しいひとときでした。これからも長く続けたいと思います。

レクリエーション活動ですが全国的に人気のある種目は1位がウォーキング、散歩、2位が体操、ヨガ、ストレッチ、エアロビクス、ピラティス、3位が筋力トレーニングなどが挙げられます。

昨年の9月に発足したレクリエーションサークルは誰でもどんなスポーツでも気軽にできるサークルです。ソフトバレー、バトミントン、卓球、など種目も少しづつ増やしたいと思います。何よりこのサークルは情報の共有化、ラインやSNSなどを活用し、身近な出来事の情報交換などコミュニケーションや人と人とのふれあいが出来る事が素晴らしいと思います。

毎年1月2日は梁川新春マラソンを実施しています。このマラソンは第46回を数え、多くの町内外の方が参加しています。この名物は魔の地獄坂があり苦戦しています。そしてファミリー3キロは親子でゴールします。最後は抽選会



グランドゴルフ全国大会予選会

2017年 5月14日(日)

会場 白根中央公園グラウンド

大会内容 個人戦(小学生と中学生は別組)
 参加資格 小学生 50歳以下
 参加資格 中学生以上は小学生以上の選手と同等の資格
 賞状 1位 優勝杯と表彰状による
 2位 優勝杯と表彰状による
 3位 優勝杯と表彰状による
 4位 優勝杯と表彰状による
 5位 優勝杯と表彰状による
 6位 優勝杯と表彰状による
 7位 優勝杯と表彰状による
 8位 優勝杯と表彰状による
 9位 優勝杯と表彰状による
 10位 優勝杯と表彰状による
 11位 優勝杯と表彰状による
 12位 優勝杯と表彰状による
 13位 優勝杯と表彰状による
 14位 優勝杯と表彰状による
 15位 優勝杯と表彰状による
 16位 優勝杯と表彰状による
 17位 優勝杯と表彰状による
 18位 優勝杯と表彰状による
 19位 優勝杯と表彰状による
 20位 優勝杯と表彰状による
 21位 優勝杯と表彰状による
 22位 優勝杯と表彰状による
 23位 優勝杯と表彰状による
 24位 優勝杯と表彰状による
 25位 優勝杯と表彰状による
 26位 優勝杯と表彰状による
 27位 優勝杯と表彰状による
 28位 優勝杯と表彰状による
 29位 優勝杯と表彰状による
 30位 優勝杯と表彰状による
 31位 優勝杯と表彰状による
 32位 優勝杯と表彰状による
 33位 優勝杯と表彰状による
 34位 優勝杯と表彰状による
 35位 優勝杯と表彰状による
 36位 優勝杯と表彰状による
 37位 優勝杯と表彰状による
 38位 優勝杯と表彰状による
 39位 優勝杯と表彰状による
 40位 優勝杯と表彰状による
 41位 優勝杯と表彰状による
 42位 優勝杯と表彰状による
 43位 優勝杯と表彰状による
 44位 優勝杯と表彰状による
 45位 優勝杯と表彰状による
 46位 優勝杯と表彰状による
 47位 優勝杯と表彰状による
 48位 優勝杯と表彰状による
 49位 優勝杯と表彰状による
 50位 優勝杯と表彰状による
 51位 優勝杯と表彰状による
 52位 優勝杯と表彰状による
 53位 優勝杯と表彰状による
 54位 優勝杯と表彰状による
 55位 優勝杯と表彰状による
 56位 優勝杯と表彰状による
 57位 優勝杯と表彰状による
 58位 優勝杯と表彰状による
 59位 優勝杯と表彰状による
 60位 優勝杯と表彰状による
 61位 優勝杯と表彰状による
 62位 優勝杯と表彰状による
 63位 優勝杯と表彰状による
 64位 優勝杯と表彰状による
 65位 優勝杯と表彰状による
 66位 優勝杯と表彰状による
 67位 優勝杯と表彰状による
 68位 優勝杯と表彰状による
 69位 優勝杯と表彰状による
 70位 優勝杯と表彰状による
 71位 優勝杯と表彰状による
 72位 優勝杯と表彰状による
 73位 優勝杯と表彰状による
 74位 優勝杯と表彰状による
 75位 優勝杯と表彰状による
 76位 優勝杯と表彰状による
 77位 優勝杯と表彰状による
 78位 優勝杯と表彰状による
 79位 優勝杯と表彰状による
 80位 優勝杯と表彰状による
 81位 優勝杯と表彰状による
 82位 優勝杯と表彰状による
 83位 優勝杯と表彰状による
 84位 優勝杯と表彰状による
 85位 優勝杯と表彰状による
 86位 優勝杯と表彰状による
 87位 優勝杯と表彰状による
 88位 優勝杯と表彰状による
 89位 優勝杯と表彰状による
 90位 優勝杯と表彰状による
 91位 優勝杯と表彰状による
 92位 優勝杯と表彰状による
 93位 優勝杯と表彰状による
 94位 優勝杯と表彰状による
 95位 優勝杯と表彰状による
 96位 優勝杯と表彰状による
 97位 優勝杯と表彰状による
 98位 優勝杯と表彰状による
 99位 優勝杯と表彰状による
 100位 優勝杯と表彰状による



- ### ③レクリエーション活動
- 現在行っているスポーツ
- 1位: **ウォーキング・散歩**
 - 2位: **体操・ヨガ・ストレッチ・エアロビクス・ピラティス**
 - 3位: **筋力トレーニング**
 - 4位: **ジョギング・ランニング**
 - 5位: **ゴルフ**
 - 6位: **水泳・アクアビクス・水中ウォーク**
 - 7位: **サイクリング**

をしますが、人気ナンバー1です。ぜひ、来年は皆さん参加して見たらいかがでしょうか。

こんな小さな町でも、みんなの力を合わせれば、何事も出来ると実感しました。みんなのやる気を、上手く引き出し地域の活性化や町おこしに貢献出来れば幸いです。

次に私の生きがいや趣味について紹介します。私が心がけている事は、人に迷惑をかける事、自分の時間を持つ事、物事や趣味に没頭する事、ストレスを溜めない事などです。

まもなく東日本大震災があった日が近づいていますが、近い将来、必ず地震が来ると言われております。ある先生は百パーセント来ると言っています。私の趣味は地震雲の写真を撮る事です。山梨の空にもこんな地震雲が見られます。梁川上空です。笛吹市の上空です。石和町です。吉祥寺上空です。

次は大月行燈の会からのお知らせです。大月の活性化や世間に猿橋をもっと知ってもらいたいとの願いで天野先生や伊藤さん方が行燈を一生懸命作っておられます。行燈の中に平家の落人伝説とありましたが、梁川町には小松神社に平重盛の尊骨が祀られている伝説があります。平清盛の長男です。本日二階のギャラリーで開催しておりますので、是非ご覧になって頂きたいとのことでした。

私たちのふるさとです、いつも見慣れている景色や風景がこうしてみるとこんなに綺麗に見えます。もしかしたら、私たちの宝物かもしれません。もう一度見つめなおして見ませんか。こんな素晴らしい所に住んでいるのですね。

終わりに皆さん是非、運動で汗をかいて、色々な方とコミュニケーションや趣味を楽しんで、健康で長生きで素晴らしい人生をおくりましょう。

ご静聴ありがとうございました。

大月(あんどん)の会



③レクリエーション活動



④梁川新春マラソン



私の生きがいや趣味

人に迷惑をかける事
自分の時間を持つ事
物事や趣味に没頭する事
ストレスを溜めない事

梁川町



私たちのふるさと・もしかしたら



【壇コーディネーター】

志村さん、ありがとうございました。たいへん汗と切磋琢磨するスポーツというパワーをよくご承知されてる志村さんの説得力があるプレゼンテーションだったなあとと思います。私は北海道出身ですのでスキーをしていて国体も出ているんですけど、相当やっていたんです。スポーツのパワーというか潜在力、集中力が個人種目であり、団体種目であり大変重要だということを学生たちに言っています。スポーツ選手っていうのは繰り返し反復練習をして出来るようになるっていうことを経験上、知っているんですね。私はこれを勉強に活かせると思うんです。活かすべきだと思うんです。よくスポーツと勉強を分けて両立、だと言いますがけれども私はあれはおかしいと思っていて、もう一つなんだと思っています。志村さんの報告は、これを町づくりに活かすという話だったと思います。これは後で議論に出ると思いますけれども、スポーツというのは開放性というんですかね、いろんな人を集めて3人1チームでしたっけ、小学生のチームですね。いい意味で町に開放性というかですね、そういうものをもたらすというか、勝負を争うという重要性は、地域にいいエネルギーを与えるんじゃないかなと思っているんですけど。志村さんはどうみてらっしゃるのか、お願いします。



【パネリスト志村 氏】

人間誰でも悔しいという思い、気持ちが強いんですね。負けたくない気持ちがあります。その負けたくないという気持ちをうまくスポーツの方に活かしていけばいいんですけど、変な方ではなくていい方に向けてもらえればいいなあとと思います。



【壇コーディネーター】

なるほど、ありがとうございます。私は指導教授に「壇、お前はバカだなあ」とよく言われたもんです。でも、バカという言葉は大学の中の世界では常用なんです。逆に褒めてもらっていると言われています。今、思えば先生に認めてもらったんだなあとと思います。負けて嬉しいという人はいないと思うんですよね。地域には重要な、必要な視点だと思います。私は浅い経験ながら思っています。それでは、お待たせしました。次の三人目、和田さんに移りたいと思います。大月短大の学生でありますけれども、和田佳乃さんです。長寿社会を豊かにする世代間交流と大学の役割ということで報告をお願いします。

【パネリスト 和田 佳乃氏（大月短大・埼ゼミ）】

大月市で暮らす皆様、こんにちは。只今ご紹介に預かりました、大月短期大学埼ゼミに所属しております、経済学科1年の和田佳乃と申します。本日私からは若者の目線でここ大月市がいかなる手法でいつまでも心豊かに暮らせる高齢社会にアプローチすればよいのかという議論について「長寿社会を豊かにする世代間交流と大学の役割」をテーマに報告させていただきます。

さて、本大会でパネリストをさせていただくことが決まってから、「生涯学習」とは何か、またそれが一つの町にもたらす効果について勉強しました。その勉強を通して、この大月市には何が必要であり、その何かを得たときどのような変化を遂げるのか、今回の報告の主題を見つけました。高齢化と人口減少に直面する大月市に活気を取り戻すには、「若者」の存在が必要不可欠である。その若者が主導して「世代間交流」の場を積極的に生み出すことが重要である。この報告の目的は、ここ大月市が「大月短期大学」という高等教育機関を中枢に位置付けた「世代間交流」を重視したまちづくりを進めるべく、ヒアリング調査の結果を踏まえ、具体的に提言することにあります。また報告の意義は、大月市は「大月短期大学」を擁するにも関わらず短大生と地域住民との交流は乏しいという現状を把握し、大月市での「世代間交流」の可能性を探るためにも埼ゼミの学生自らの足で大学周辺の100世帯を対象にヒアリング調査を実施したことにあります。

それでは、報告の目的と意義を踏まえて「超高齢社会」の真ただ中にある日本、そして大月市の基礎データを見ていきます。

こちらの表をご覧ください。これは全国、山梨県、並びに大月市の、総人口、高齢者人口、そして高齢化率を示しています。赤丸で括られた大月市の数値に注目しますと、高齢化率は35.2%であり、全国平均、県平均ともに大きく上回っていることが読み取れます。こちらには書いてありませんがこの35.2%

という数値は、高齢化率21%以上と定義される「超高齢社会」の基準を約14%上回っています。

しかしこのような数値に対して国や地方は、人口が減ることによって明るい未来を迎えられないといった考えに偏りすぎている現状を否めません。東京大学名誉教授である吉川洋先生は著書の中でこのような考え方を「人口減少ペシミズム」と呼んでいます。「ペシミズム」というのは「悲観主義」と邦訳されます。そこで人口減少や高齢化といった目に見え易い数値や問題に捉われることなく、活力あるまちづくりを実現する考え方と

長寿社会を豊かにする 世代間交流と大学の役割

大月市立 大月短期大学 経済科 1年
埼ゼミ 和田佳乃

報告の目的、意義

(目的)

高齢化と人口減少に直面する大月市に活気を取り戻すには、「若者」の存在が不可欠である。その若者が主導して「世代間交流」の場を積極的に生み出すことが重要である。大月市は、「大月短期大学」という高等教育機関を中枢に位置付けた「世代間交流」を重視したまちづくりを進めるべく、ヒアリング調査の結果を踏まえ、具体的に提言することである。

(意義)

大月市は大月短期大学を擁するが、短大生と地域住民との交流は乏しい。この現状を把握し、「世代間交流」の可能性を探るためにも、埼ゼミの学生自らの足で大学周辺の100世帯を対象にヒアリング調査を実施した。

1. 「超高齢社会」日本、そして大月

大月市の高い「高齢化率」

	総人口 (万人)	高齢者 ¹⁾ 人口(万人)	高齢化率 (%)
全国	12,711	3,392	26.7
山梨県	84.6	2.4	28.2
大月市	2.6	0.91	35.2

1) 高齢者…65歳以上の人口を指す

※全国…平成27年10月1日現在 総務省「人口推計」より

※山梨県、大月市…平成28年4月1日現在

山梨県「平成28年度高齢者福祉基礎調査概要」より

- 国や地方は、過度な「人口減少ペシミズム（悲観主義）」に陥っている現状がある。
- そこで、人口減少や高齢化率といった外形標準的な数値や問題にとらわれることなく、活力あるまちづくりを実現する考え方として見直すべきものがある。

「世代間交流」である。

して見直すべきものがあります。その見直すべきものとは、この報告の一番のキーワードとなる「世代間交流」です。それがこちらです。

「世代間交流」の必要性について最新の内閣府高齢者白書は次のように指摘しています。およそ6割の高齢者が若い世代との交流を希望しているにもかかわらず、現状では世代間交流の機会が乏しいためその設置を望む高齢者が多いと言及しています。そこでその「世代間交流」の中心となるのが「若者世代」です。「若者世代」を中心とする理由は、心豊かに暮らせる長寿社会は、若者世代つまり労働力によるサポート体制が絶対に必要である、言い換えれば若者世代と高齢者の共生、すなわち「世代間交流」は中長期的な発展成長を可能にするということです。こうした「世代間交流」を手段としたまちづくりは国が先立って「日本版CCRC 構想」で提示しています。この構想の意義は高齢者の希望の実現、地方への人の流れの推進、東京圏の高齢化問題の対応の3点とされています。このような日本版CCRC 構想を前提とし、先進的なまちづくり政策プランを掲げているのが神奈川県茅ヶ崎市です。

こちらの画面をご覧ください。これは茅ヶ崎市が平成27年に示した「いつまでも心豊かに暮らせる長寿社会」の考え方です。いくつかのイメージが挙げられておりますが、例えば左上にあります「セカンドライフのプラットフォーム」、これは高齢期における社会参加の仕組みづくりの事です。さらに真ん中にあります「コミュニティ食堂など、多世代交流の場」は「世代間交流」の機会設置の重要さを言及したものであると考えられます。しかしこのような先進事例である茅ヶ崎市にもまちづくり再編を行う上で足りないものがあります。実はその「足りないもの」というのは、ここ大月市にはあります。大学です。

私は大月市のアドバンテージは「大月短期大学」にあり、そこに通う学生という若者世代が大月市のまちづくりにおける世代間交流の中核になると考えます。そこで実際に大月市での世代間交流を手法としたまちづくりは可能なのか、またそれを行う上でどのような地域課題が存在するのかを探るために塙ゼミの学生でヒアリング調査を行いました。

こちらが実際のヒアリング調査の様子です。左上は塙ゼミ一年生の学生です。その隣と左下の写真は調査結果を大学に持ち帰り集計と考察を行っているところです。右下の写真は地域の方に調査をしているところです。この写真に写っていらっしゃるのは、本日あちらにいらっしやいます、大月公民館長の加納先生です。加納先生には私たちのヒアリング調査の実施に大変なご協力をいただきました。ありがとうございました。また、調査に協力してくださった大月市の皆様、この場をお借りしてお礼をさせてい

豊かな長寿社会を支える「世代間交流」

「世代間交流」の必要性について『内閣府高齢者白書』（平成28年度）は、

- ・約6割の高齢者が若い世代との交流を希望。
- ・世代間交流の機会が場が不十分。

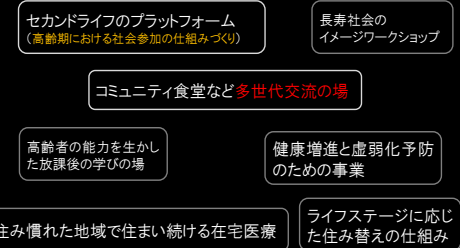
と言及している。

・その「世代間交流」の中心となるのが「若者世代」である。
 ・心豊かに暮らせる長寿社会は、若者世代(労働力)によるサポート体制が絶対必要となる。
 ・つまり、若者世代と高齢者との共生(=世代間交流)は、地域経済の中長期的な成長発展を可能にする。

〈日本版CCRC構想〉
 ①高齢者の希望の実現 ②地方へのひとの流れの推進
 ③東京圏の高齢化問題への対応

(事例) 神奈川県茅ヶ崎市
 「豊かな長寿社会に向けたまちづくり基本方針」平成27年2月

「いつまでも心豊かに暮らせる長寿社会」の考え方



2. 大月市の強み大月短期大学を活かした「世代間交流」



ヒアリング調査 (概要)

1. 実施日 平成29年2月7日(火)、8日(水)、9日(木)
2. 対象地区 御太刀1丁目・2丁目
大月1丁目・2丁目・3丁目
花咲、駒橋1丁目・2丁目、強瀬
3. 標本数 102世帯(全て一戸建住宅)
4. 方法 個別訪問(設問10への回答)

たきます。皆様から頂いた「生の声」というのが私たち学生の一
 番の勉強になります。ありがとうございました。

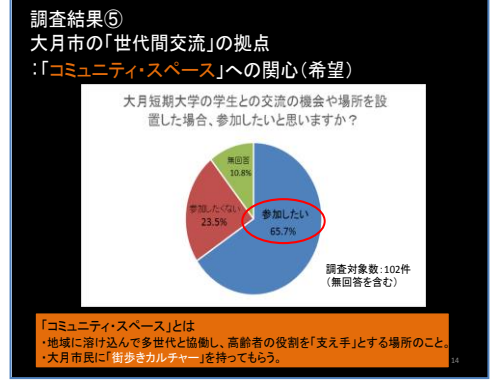
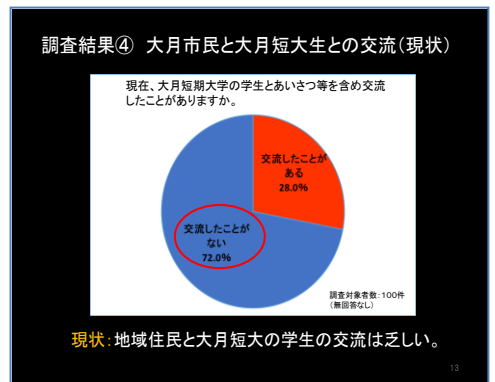
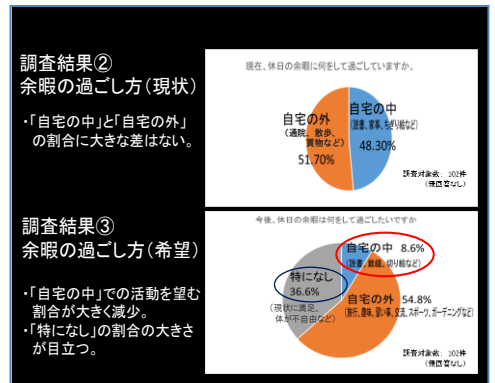
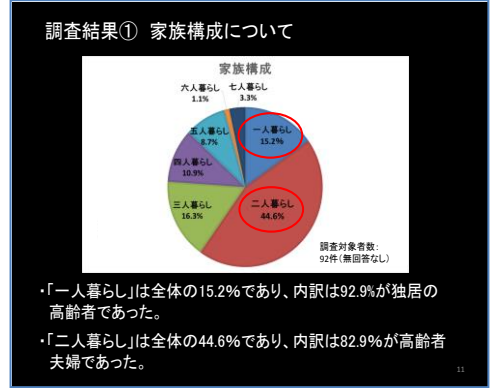
それではヒアリング調査の概要を簡単に説明いたします。実施
 日は2月7日から9日の3日連続。調査の対象地区は大月短期大
 学の周辺地区である御太刀1丁目・2丁目、大月1丁目・2丁目・
 3丁目、花咲、駒橋1丁目・2丁目、強瀬。標本はすべて一戸建
 て住宅に限定した102世帯。調査は埼玉生が事前に作成した10
 の設問を個別訪問の形でお願ひしました。このヒアリング調査を
 踏まえて、次のような結果が得られました。

まず調査結果①家族構成についてです。こちらのグラフをご
 覧ください。「一人暮らし」は全体の15.2%、また「二人暮らし」は
 全体の44.6%でした。グラフの下にも書いてありますが、「一人暮
 らし」と回答されたうち92.9%が独居の高齢者、また「二人暮ら
 し」と回答されたうち82.9%が高齢者夫婦でした。この結果から
 調査対象地区では、「一人暮らし」、「二人暮らし」世帯共に高齢化
 が著しいことが判明しました。

次に調査結果②余暇の過ごし方の現状についてです。趣味や家
 事をして「自宅の中」で過ごすと回答されたのは全体の48.3%、
 通院、散歩、買物などで「自宅の外」と回答されたのは51.7%で
 あり、自宅内、自宅外の数値に大差はありませんでした。一方で
 調査結果③、同じく余暇の過ごし方ですが、こちらは現状対し
 て希望の調査です。希望でもなお自宅内で過ごしたいと回答され
 たのは全体の8.6%、自宅外での活動を希望するのは54.8%、「特
 になし」と回答されたのは36.6%でした。ここで現状から希望で
 「自宅の中」の数値の大幅な減少が見られます。ただし「自宅の
 外」の数値にほとんど変化は見られず、代わりに希望では「特に
 なし」が目立つことに注目しなければなりません。「特になし」と
 いうのは現状の生活への満足、あるいは体が不自由であるとい
 うご意見であり、この結果も大月市の高齢化の現状を浮き彫りにし
 ていると言えます。

続いて調査結果④大月市民と大月短大生との交流の現状につ
 いて、この調査は今回報告する資料のなかで特に注目すべきもの
 です。大月短大の学生との挨拶を含む交流経験の有無を尋ねたところ、
 「交流したことがない」と回答されたのが全体の72%でした。
 ここで確認しておきたいのがこのヒアリング調査を大学周辺の地
 区に限定して行ったという事実です。大学周辺地区で調査を行っ
 たのにも関わらずおよそ7割の方が短大生と交流したことがない
 という調査結果は、現状での地域住民と短大生の交流が乏しいこ
 とを明確にしています。

最後は調査結果⑤大月市の「世代間交流」の拠点、「コミュニ
 ティ・スペース」への関心についてです。こちらにも調査結果④と同
 様、報告の要となるデータです。大月短大の学生との交流機会を



3. 結論と提言

設置した場合の参加希望を調査した結果、「参加したい」と答えてくださったのが全体の 65.7%でした。先ほど調査結果④では約 7 割の方が短大生との交流経験がないと回答されていました。にも関わらず 6 割強の方が短大生との交流を望んでいるという結果は、ここ大月市での「世代間交流」を手段としたまちづくりの可能性を示していると考えても良いのではないのでしょうか。私はこれを地域住民と短大生双方にとってのチャンスであると考えています。なお「コミュニティ・スペース」とは地域に溶け込んで多世代と協働し、高齢者の役割を「支え手」とする場としての役割を果たします。また、大月市民に「街歩きカルチャー」を持ってもらい、市内での回遊性すなわちモビリティを創出する拠点になると考えられます。つまり、「コミュニティ・スペース」を目的に広い世代の市民に自宅を出て街を歩く習慣を持ってもらう。そこで行われる「世代間交流」において、高齢者は受け身ではなく積極的に活動を行い、全世代の「支え手」になってもらう。それが「生きがい」や「喜び」を感じる「心豊かな生活」につながっていくと考えられます。また、「コミュニティ・スペース」はただ集まる場所ではなく、何らかの経済活動を伴うことでその持続可能性が保障される、と考えられます。

それではヒアリング調査の結果を踏まえ、結論と提言をさせていただきます。

まず結論は次の 3 点です。1 つ目、いつまでも心豊かに暮らせるまちづくりには若者世代の存在が必要である。2 つ目、持続可能で豊かな「世代間交流」の機会が長寿社会「大月市」を豊かにするまちづくり再編への一助となる。3 つ目、市民主体の「世代間交流」は街に中心性と回遊性を生み出す。長寿社会であっても地域経済に多様かつ積極的な消費を生み出すと期待される。

続いて 3 点の提言をさせていただきます。1 つ目、大月短期大学の学生はもちろん大月市民でもあります。そのことから積極的に「世代間交流」を生み出す主体となると同時に、若者目線から社会的課題解決のアイデアをもっと発信したらどうか。2 つ目、その社会的課題解決の具体的な提案です。社会実験として大学近隣に気軽に足を運べる「カフェ」等の「コミュニティ・スペース」を設置したらどうか。さらに通常営業のほか、小中学生、大学生、そして市民の皆様が参画できるイベント等の開催も面白い。3 つ目、その「コミュニティ・スペース」が一時的または一過性のものにならないよう学生は市民の声に耳を傾け、持続可能で日常的な「世代間交流」の礎を築く。大月短大は「高等教育機関」であり、教員、学生共に大月市の地域課題を特に経済面から学術的にアプローチすることができます。このような地域資源を活かさない訳にはいかないのです。

以上が私のヒアリング調査の結果を基にした、短大生を中枢に据えた「世代間交流」を手段とした大月市でのまちづくりの考え方の報告でした。

ご清聴、ありがとうございました。

(結論)

- 1 いつまでも心豊かに暮らせるまちづくりには若者世代の存在が必要である。
- 2 持続可能で豊かな「世代間交流」の機会が長寿社会「大月市」を豊かにするまちづくり再編への一助となる。
- 3 市民主体の「世代間交流」は街に中心性と回遊性を生み出す。長寿社会であっても地域経済に多様かつ積極的な消費を生み出すと期待される。

(提言)

- 1 大月短期大学の学生は大月市民でもあることから、積極的に「世代間交流」を生み出す主体となると同時に、若者目線から社会的課題解決のアイデアをもっと発信したらどうか。
- 2 具体的には、社会実験として大学近隣に気軽に足を運べる「カフェ」等の「コミュニティ・スペース」を設置したらどうか。通常営業のほか、小中学生、大学生、そして市民が参画するイベント等の開催も面白い。
- 3 その「コミュニティ・スペース」が一時的または一過性のものにならないよう学生は市民の声に耳を傾け、持続可能で日常的な「世代間交流」の礎を築く。

ご清聴、ありがとうございました。

【埧コーディネーター】

和田さんありがとうございます。この場を借りて私からもヒアリング調査にご協力くださった方々にお礼申し上げたいと思います。和田さん本人からもあったように生の声、エビデンスという難しい言葉で言いますと、根拠ですね、証拠ですね、それなくして学問研究できないんですね。逆にエビデンスがあれば、積極的なことができるわけです。そこは学生にも普段教えていますし、和田さんも理解してくれていたと思います。私の試みで学生のこういったみなさんの前に起ったことがないということなので、こういう場で少しでも役に立てばと思っております。後でまた議論しますが、ワンポイント聞くと、ヒアリング調査、かなりご苦労されたかと思えますけど、余暇の過ごし方は現状と希望が乖離していましたよね、何でそういうことがおきるのか、どうみてますか。



【パネリスト和田 氏】

まず、調査結果②と③の余暇の過ごし方の現状と希望のところですが、自宅内で活動を望む割合の少なさと特になしの割合の大きさが目立ちました。特になしというのは、報告の中でも述べましたが、現状の生活に満足している、あるいは、体が不自由で外に出る希望もないということでした。その中でやはり高齢化というのが一番おおきな乖離の原因なのかと考えます。



【埧コーディネーター】

わかりました。いろいろ見えてきたものもありますし、また、これからディスカッションしていこうと思います。以上 3 名の個別の報告は終わりました。引き続き、パネルディスカッションに入っていきたいと思います。

■ 第2部 ディスカッション、会場との対話

【埴コーディネーター】

私から2問ほど簡単ではないんですけど、質問をしたいと思います。一つ目の質問は、個人を地域社会に参加させるカギ（これまでの工夫）は何ですか。ところがそれほど難しいことではないと思うんですよ。まあ、みなさんはレジェンドですから、いろいろ工夫されていることを佐藤さん、志村さん、和田さんの順に答えていただきたいと思います。佐藤さんからお願いします。



【パネリスト 佐藤 氏】

ご近所とか小さな社会ではお茶飲みとか酒飲みとかこういうのが一番お互い話もできるし、そういうことをたくさんやっていただきたいと思います。少し広く考えると例えば、富浜町ではみんなが積極的に参加できるものとして富浜公民館がやっている町民運動会、これはすごいです。こういう運動会をさらに充実させ盛大にやるとか。福地八幡の富浜のお祭り、こういう行事を盛大にやっていくという、人があんまりいないからといって止めてはだめです、継続しないと。

【埴コーディネーター】

継続は力なり、ということなんですけど、盛大にというのはやり方を少しづつ変えていくということでもあるし、一方でいたずらに変えずにそれを維持していくということもあります。私も地域をいろいろ調査するんですけど古いものと新しいものがある意味で混在していくことが大事で、佐藤さんが言う盛大にというのは例えばどういうことを意味するのか。いろいろあると思いますけど一つだけ教えてください。

【パネリスト 佐藤 氏】

運動会でも変えていく必要があると思うんですよね。やはり、若い人が少なくなってきた。ただ、若い人が少なくなってきたからって若い人向けのものばかりでもね。和田さんから先ほど発表があったように世代間交流、地域から出た人に地域の運動会に参加してもらうという方法があると思います。

【埴コーディネーター】

ぜひ、うちの学生もそういう企画に参加させてもらうということをこの場でお約束いただきたい。住民をどのように地域に参加させるか、地域社会に人が埋もれてしまうところから、地域のスポーツの観点でいうとどう見てらっしゃるのか、志村さんいかがですか。

【パネリスト 志村 氏】

人間は楽な方がいいです。川の流れは楽な方に行きますが、形も曲がっているよりあ

る程度真っ直ぐになった方が流れます。ですから人をいろいろ参加させるには、足を運んでお願いしたり、いつの間にか一緒になってやっているという形をもってやっていくということ、その前に色々こうした方がいいんじゃないかとか、ああした方がいいんじゃないかとか思案して考えて、それから決まったら曲げなくて進むと、いうふうな事が大切だなと思います。



【埧コーディネーター】

下から湧き上がる草の根的にいろんな意味合いが多様化するんですけど、それをまとめ上げて個人を重視するとどこか意見が多様化しますからね、どこかで中役をつけないといけないジレンマというか大きな壁というか、課題もあるんですけど、ある程度、下の意見を聞いていく土壌も大事だと思います。そして、個人を地域社会に参加させるということになるんです。

【パネリスト 志村 氏】

そうですね。やはり反対もあります。賛成という方もいます。いいことだとわかっているけど反対する方がいますので、それをうまく話を合わせながら、いろいろな意見を聞きながらいい方向へもっていくということです。

【埧コーディネーター】

なるほど。ありがとうございます。和田さんはどうですか。難しいかもしれないですけど、個人を学生に置き換えてもいいですしね。

【パネリスト 和田 氏】

私は学生を地域に参加させるという点と、あと普通に地域住民の方を参加していただくカギを二つ考えたんですけど、まず学生は現実味を帯びてしまっていて、やはり学生は見返りが必要だと思います。例えば、かがり火祭りや軽トラ市に多くの学生が参加していますが、我々はそこで単位をもらっています。もちろん単位でなくても、例えば佐藤さんの扇山でのトレイルランへの参加ですね。アウトドアやスポーツ好きの学生ならば、進んで機会があれば参加すると思います。そのトレイルランをして自身の体力向上という見返りを得たり、経験という見返りを得たりすることができます。そういった面で俗な言葉になりますが、見返りというのは絶対に必要かなと考えています。あと、地域住民の方では気軽さ簡単さ、あとは話題との幅広さというのが必要になると考えています。まず気楽さと簡単さですが、やはり地域のイベントでなくても地域に参加するというのは少なからず壁というものが立ちはだかってくると考えています。例えば、体が悪くて自宅を出られないという一つの壁ですし、普段から地域の交流がないから私なんかが行っていいのかなという壁もあります。そんな壁を気楽に乗り越えられる気軽さ簡単さが地域への参加を高めるかなと考えています。あと、幅広さですが話題が人それぞれですので、趣味を多く持っていたり全然持っていなかったりする人がいると思うんですけど、どんな人でも参加できるという体制が必要だと考えていま

す。

【埧コーディネーター】

はい、ありがとうございました。まだまだご意見あると思いますが、次の質問二番に行きたいと思います。二番はですね、昨年と同じ質問させていただいたんですけど、具体的に大月市のまちづくりや活性化に今、何が必要ですかということ。ご自身の立場や経験、失敗等からもっとこうすれば大月は活性化するのに、などの意見や提言を具体的にお願いします。逆にこれを突破できれば大月はもっとよくなると、具体的にこうだ、というのを佐藤さんからお願いします。

【パネリスト 佐藤 氏】

私は個人、大月市民はもっと行政に主張すべきだと思っています。みなさん、大変おとなしい。こうやったらいいという主張をすべきだと私は思っています。それからもうひとつ、先ほどから扇山の活用ということで話をしましたけれども、やはり大月には山が80%くらい山林があるんですね。これをうまく活用してそれで賑わいをもたらすというのは、あるものを活かすということです。高尾山にいっぱい取られています、あれを扇山に呼び込みますと次にまた登る山を大月市の中で探してもらって、そういうことをやっていったらどうか。ただ、私が見てましてそれをやるにあたって私たち扇山管理委員会は入会権で人材も設備もそれから山梨県との関係もありますけども、それで他の大月市の山というのは上の方は県有林なんですね。ですから県有林と民有林が一体になったようなそういう山の管理を何か考えていかなければならないと思っています。ですから一山を管理するというにならないと道を入れるにしても、邪魔になる木を切るにしても大変なんです。私は山梨県に主張していますよ。そういう形にならないと登山の山、人を呼び込む山にするにはそういうことを考えなければなりません。

【埧コーディネーター】

ありがとうございます。志村さんいかがですが。今何が必要か。

【パネリスト 志村 氏】

大月市には優秀な方が多いです。例えば料理人に例えると素晴らしい板前さんがいる。食材は猿橋があります。岩殿山があります。矢立の杉があります。深城があつて、梁川には平家の隠れ里があります。食材があつて料理人がいる、だけど、まな板、包丁がないんです。大月市にまな板と包丁、調理室を準備していただければもっと活性化になります。

【埧コーディネーター】

なるほど、和田さんはいかがですか。

【パネリスト 和田 氏】

くどいようですが、私からは世代間交流が必要だともう一度押します。日常的に行われる世代間交流は社会の中で自分は大きな役割を持っているという意識を高齢の方に持ってもらえます。つまり生きがいを持ってもらうということです。そういったソフト面に生涯学習的な面だけではなく、やはり報告の中で申し上げたようにどうしても若者によるサポート体

制というのが必要となってきます。日常での活発な世代間交流は非日常、災害時であったりそんな時でも日常的な活発な世代間交流が行われているということは、非日常でも活発な体制が整われているということで、大月市は廃れていないんだなということになります。やはり町を明るくするためには、日常的な世代間交流が必要になるということだけは述べたいです。

【埴コーディネーター】

まあ、交渉的なモビリティですね。やっぱり積極的に出していく必要がある、積極的な仕掛けが地域には必要である。そこは人が作っていかなければならないですね。待っていても出来上がらないということです。まだまだもう一周したいくらいですが、時間も押していますので、ここからは、会場との意見交換ということにしていきたいと思います。会場のみなさん、どうぞ自由闊達なご意見、よろしく願いいたします。冒頭に所属団体等あれば所属団体、地区名をおっしゃっていただいて、どなたに質問したいか明確にお願い致します。どなたかいかがでしょうか。

【質問者 A 女性】

大月市保健活動推進委員会の会員であり、富浜地区から今日、出席いたしました。大月短大の学生さんにお聞きしたいと思います。私たちは食生活改善委員会の役目も持っていますけれども、今年は十八歳から四十歳までの若い世代に減塩活動をしておりますが、周りがみんな高齢化してしまっていて、若い世代に減塩の呼びかけができなくて今日、出席して学生さんの声を聞いて、ぜひ、お料理教室だとか減塩のお話だとか呼びかけていけたらいいなと思いますけれど、なかなか学業が大変で私たち年寄が歩いていくっていうのが、とても難しいんじゃないかなと昨年くらいから考えておりましたけれど、今日、出席して学生さんの声を聞いてとても嬉しく思いました。

【埴コーディネーター】

ありがとうございます。質問というか確認ですね。何かリプライはあればどうぞ。

【パネリスト 和田 氏】

減塩というのは、塩を減らすということですか。

【質問者 A 女性】

はい、塩分を少なくしておいしく食べるという料理方法なんですけれども、ちょうど今の若い人たちに減塩していただくと歳を取って生活習慣病にかかりづらいという、山梨県の方から今年度、私たちに提言をよびかけてくださいということなので、どこへ言ったらいいかと思いましたが、ちょうどいい機会なので言わせてもらいました。

【埴コーディネーター】

どうですか。

【パネリスト 和田 氏】

はい、ありがとうございます。お料理教室なんかは学生、女の子は特に行きたがると思っ

ます。何か知らせとかを私たちの方から学校に提示すれば何人来ますかね？いっぱい来ますよね？

【埴コーディネーター】

僕に聞いている？

【パネリスト 和田 氏】

はい。やっぱり、一人暮らしの学生が多いですから女の子たちはお料理教室、絶対参加します。

【埴コーディネーター】

それより健康寿命の関係、医療費の問題いろいろありますからね。そういったところを若い世代、大月短大の学生さんたちにそこから医療教育を展開する対象として何か意見できたらいいかなと思います。すみません、僕がまとめちゃいましたけれど。他はいかがでしょうか、年一回の推進大会ですので。

【質問者 B 男性】

大月短大埴ゼミ所属しています。花咲地区から出席させていただきました。志村さんに質問させていただきます。スポーツを通じて地域活性化を目指すということですが、スポーツが苦手という方もいらっしゃると思います。そのような方に対してはどのようなやり方をお考えでしょうか。



【パネリスト 志村 氏】

スポーツが基本的に苦手という方はいます。運動神経が少し鈍いなという方もいます。しかしながら、その中で遊びと兼ねたスポーツというのを混ぜても上手い人が下手な人を見下す癖があるんですね。そういう時は指導者がうまくチーム分けをするといったことを考えながらやっていけば、伸びる子は伸びます。伸びない子はある程度、段階を経て伸びると思います。

【埴コーディネーター】

ありがとうございます。他にありますか。2階になりますがいらっしゃいますね。

【質問者 C 女性】

徐々に生涯学習推進大会に出席したんですけど、学生さんが大月の活性化ということで地域の方にアンケートをとったりしていることをとても嬉しく思います。私たちも大月短大の学生さんたちは大月市民の大切な財産だと思っています。400名以上の学生さんがこの町に若さを持ってきてもらっている中で、先ほど和田さんもおっしゃっていましたが、かがり火祭りとか軽トラ市とかいろんなイベントで活躍なさっている。そのことをどれだけ市民が知っているかなと思いました。それと、佐藤さんに扇山の維持管理をなさっている報告をお聞きしましたが、確かに大月は自然がいっぱい、だけど美しい自然でなければならぬ、扇山

に続く岩殿山や百蔵山などの維持管理はどのように思っていますか、どのようにお考えですか。扇山で手いっぱいでしょうか。

【埧コーディネーター】

それでは和田さんから行きましょう。

【パネリスト 和田 氏】

ありがとうございました。ヒアリング調査を通して、このような大月短大への市民のみなさまの意識というのは、という質問をしてきました。その中で、佐藤茂幸という先生が短大にいらっしゃるんですけど、その先生のゼミの中での笹一酒造のつきたんというお酒は結構知ってらっしゃる方が多くて、大月短大の学生との交流が今ありますかという質問もしたんですけど「あるじゃん、あるじゃん、つきたんやってるじゃんねえ」と答えてくださったりしています。しかし、活動とちょっと離れますが大月短大が12月に学園祭を開いているんですけど、そこにはなかなか市民の方がそれには壁があって入っていけないとおっしゃっていました。大学側が開放性を求められる物にも関わらず、大月短大は閉鎖性の方が強くて、もっと市民に開いていかなければならない、というのは感じています。

【埧コーディネーター】

佐藤さん、いかがですか。

【パネリスト 佐藤 氏】

すみません。耳が遠くてちょっと聞こえなくて。(質問者が2階からでしたので)

【埧コーディネーター】

扇山に続いて岩殿山、百蔵山などの次なる展開はどうお考えですか。扇山で精一杯なのかどうか。

【パネリスト 佐藤 氏】

扇山で精一杯とういふか、先ほどの報告で説明いたしましたけれども、私たちも扇山の入会権を富浜の会員で維持しているという話をしたと思います。それで、他の大月市の山をやるのには、ひとつにはね、それを推進するぶれないリーダーが2,3人が必要だと思います。私が主張しているのは、上の方は山梨県の県有林ですからこの県有林と民有林を一体とした山の管理を山梨県に言っています。全部がそういう風にできないまでも扇山以外の一つの山でもいいから県有林と一体となって県有林は山梨県の税金をたくさん使っているわけです。ですから、県有林と民有林が一体となって、そこの地域で本当にぶれないリーダーがやれば、そこはうまく活用できると思います。

【埧コーディネーター】

よろしいですか。はい、ありがとうございます。それではですね、最後に新しい試みですが、直筆でフリップにキーワードをこれだけは言いたい、みたいなことを書いてもらってかざしてもらいます。30秒ほどで書いてもらって、いろいろ情報をいただいたわけですけども、最後にキーワードをお願いします。それでは、一斉に出してください。それでは、佐藤さん

から 10 秒くらいで、「山の活用は扇山が一番」、はい、お願いします。その心は…。

【パネリスト 佐藤 氏】

一番って言っているのは整備が一番ということではなくて、私たちは山梨県の行政の事もよくわかっています。扇山は人材も設備も揃っています。そういう面で一番です。それで大月市でというよりも山梨県でもこれだけ山を活用しているという団体は扇山が一番です。こんな風に思っています。

【埴コーディネーター】

ありがとうございます。志村さん、お願いします。

【パネリスト 志村 氏】

「やる気ホルモンの分泌」です。人間、ホルモンというのが出るんですね。その中におそらくやる気を出すホルモンがあるんじゃないかという気がします。それをたくさん分泌して活性化に役立てて、リーダーになってやってもらいたいなと思っています。

【埴コーディネーター】

ありがとうございます。和田さん、お願いします。

【パネリスト 和田 氏】

私からは「街歩き」です。報告の中では街歩きカルチャーという言葉で紹介しましたが、個人が簡単に評価することでこれに越したことはありません。花粉症の方、今日は大変ですが、自宅から一歩外に出て大月市を歩いてみてください。大月の街が変わります、交流が生まれます。以上です。

【埴コーディネーター】

ありがとうございます。




★ まとめ

【基コーディネーター】

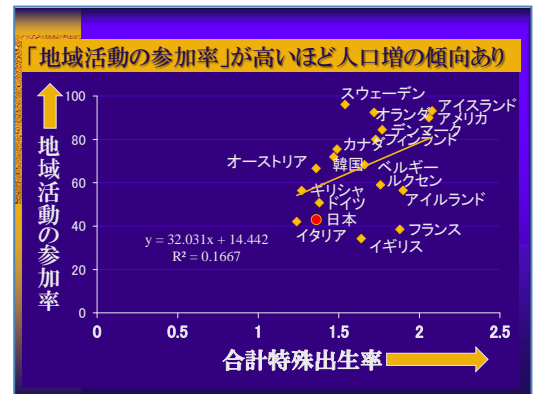
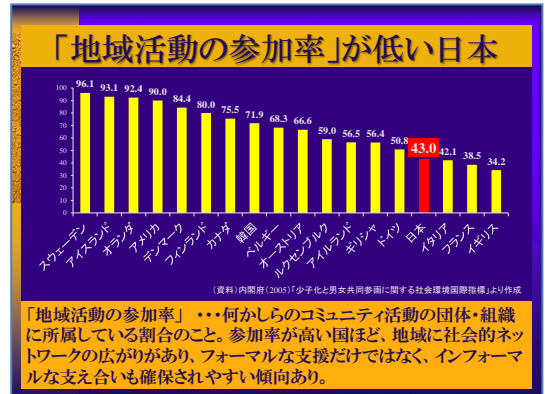
私の方でまとめを述べて終了したいと思います。5分ほどいただきたいと思います。「レジリエンス」で地域を再生する、レジリエンスは英語です。物理学、防災学で使用される学術用語で復元力、再生力と邦訳されます。変形した後にまた元に戻る力です。こんにやくみたいなものです。元に戻りますよね。人間、地域、経済も固有のレジリエンスを持っていると言われていいます。日本の最高権威は京都大学です。京大の防災研究所っていう所がありますが、そこの先生がいらっしやいますが、地域経済のレジリエンスの観点からの研究として、京大は東大を凌ぐくらいの研究実績を持っています。そういった言葉のご紹介ですけれども、自らの力で復元、再生するという町づくりが可能だと、彼らは可能だと言っています。その一つの手がかりとして地域活動の参加率ということでこれも聞き慣れない数字とは思いますが、日本は結論から言いますと、低いです。これはOECD加盟の先進国の比較なんですね。地域活動の参加率というのはどういう定義かといいますと、何かしらのコミュニティ活動の団体、組織に所属している割合のことです。スウェーデンはかなり高いですね。高い国ほど、地域に社会的ネットワークの広がりがあり、フォーマルな支援だけではなく、インフォーマルな、要するに非公式な支え合いも確保されやすい傾向があるとわかっています。この表だけだと、なんだ日本の悪口だけかと言われてしまうので、もう少し、突っ込んでみようと思います。次ですが、この地域活動の参加率を縦軸にとります。横軸には合計特殊出生率です。この合計特殊出生率の相関関係を私は研究しました。そうすると、先ほどの96%で高かったスウェーデンなど確実に右肩あがりのグラフに相関関係があると思われま。つまり、地域活動の参加率、扇山管理委員会、スポーツ、世代間交流すべて縦軸の話です。これが高ければ高いほど、合計特殊出生率、それから、女性の就労率も上がります。就労率も合計特殊出生率も刺激することがわかっております。これ、確実に右肩上がりになっています。地域活動の参加率というのは、人口を維持するという、一つの大きな要素だということがわかってきています。ただ単に生涯学習ということだけでなく、やはり一定の地域を、コミュニティを維持するという、これは、やっぱり経済的人口なんですね。これなくして前には進めないです。その合計特殊出生率に何が影響を占めるか。地域活動参加率、これが非常に重要だということがわかっています。そこで、次なんです、レジリエンスが「内包」されているという話なんですね。そう簡単ではないという話なんです。大月市はレジリエンスを発揮して、まちづくりを進めてしていこうという時にはですね、「まちづくり」という言葉がヒントになってきます。英語では community development といいます。この development という単語が大事なんですね。de と velop で音

「レジリエンス」で地域を再生する



【レジリエンス】(resilience)
物理学、防災学で使用される学術用語で「復元力、再生力」と邦訳される。

人間、地域、経済も**固有のレジリエンス**を有しており、自らの力で復元・再生・まちづくりを可能に。



節で分かりますが、英語が得意な方は分かると思いますが、**de** というのは逆という意味。**velop** というのは包みこむという意味なんですね。包みこまれていることを **de** するわけですから、開発するということになります。大月市で内包されているレジリエンスは何であり、それをどう発揮していくか、森林資源開発あるいは活用なのか、スポーツ振興なのか、世代間交流なのか、その発見と行動が生涯学習に非常に求められている。それは先般的な要因なんですね、大月市にとって大きなチャレンジであり、包まれているものを **de** する、という話が非常に重要になると思います。待っていたらダメなんです。人口減も待っていたらダメなんです。自分達で地域活動の参加率等を上げて、そこから中心性と回遊性などを持たせたり、あるいは、参加したら面白いって、学生には呼吸の幅と言っていますが、大月市の呼吸幅ってどれくらいなのでしょう。それが人を呼び込めるパワーにもなるし、逆もあるかもしれません。もう少し広めていく、せっかく 400 人も学生がいるわけですし、他府県から来ている学生もいますし、大月短大の学生も少しは役に立てることもあるだろうし、そういった意味で **develop** する、内発していく、内発するといったことが大事だと思います。

最後、まとめになるような話ではございませんでしたけど、三人のパネリストの方々に盛大な拍手をしていただきたいて終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

レジリエンスは「内包」されている

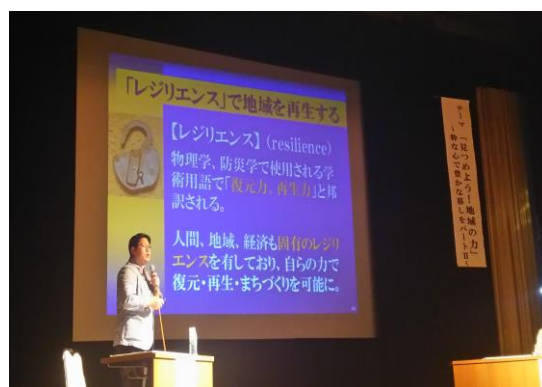
大月市が**レジリエンス**を発揮してまちづくりを進めるには？

「まちづくり（地域開発）」
= community development

“**de-velop**”（内発）しないと、**レジリエンス**は発見できない

大月市に内包される、**レジリエンス**は何であり、それをどう**発揮**していくか？

その発見と行動が、「**生涯学習**」に求められる大きな**チャレンジ**。



第 55 回大月市生涯学習推進大会 〈アンケート用紙〉

お忙しいところ、ご参加くださりましてありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますので、以下の問いにお答え下さい。

◎ あなたご自身について教えてください。【該当するものに○印】

男性・女性 (10歳代～20歳代 30歳代～40歳代 50歳代～60歳代 70歳以上)

1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア. 自営業 イ. 勤め(全日) ウ. 勤め(パート・臨時) エ. 学生
オ. 専業主婦 カ. 無職 キ. その他()

2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア. チラシ イ. 知人・友人からの案内 ウ. 市広報 エ. 学校からの案内
オ. 公民館からの案内 カ. 所属団体からの案内 キ. その他()

I 大会に参加した動機について教えてください。

- ① 発表内容に関心があるから
- ② 取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから
- ③ 仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから
- ④ 生涯学習全般に興味があるから
- ⑤ コーディネーター・パネリストに関心があるから
- ⑥ 公民館や学校等から案内があったから
- ⑦ その他()

II 全体構成や日時設定などはいかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① ちょうど良かった
- ② 開会行事が長すぎる
- ③ シンポジウムが短すぎる
- ④ シンポジウムが長すぎる
- ⑤ その他()

III 今回のシンポジウムは、全体としていかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① とても良かった
- ② よかった
- ③ どちらともいえない
- ④ 不満だった
- ⑤ とても不満だった

〔上記を選んだ理由：〕

● ご自由にお書き下さい。(感想又は、今後の大会で採りあげてほしい課題等)

ご協力ありがとうございました。

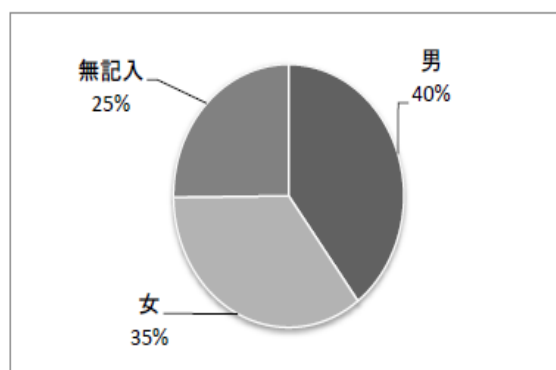
第55回大月市生涯学習推進大会 アンケート結果

アンケート件数: 151
アンケート回収率: 59%

◎ あなた自身について教えてください。

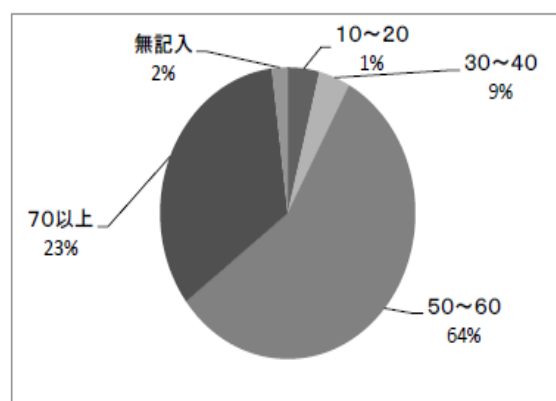
(性別)

男	60
女	53
無記入	38



(年代)

10歳代～20歳代	6
30歳代～40歳代	6
50歳代～60歳代	85
70歳以上	50
無記入	3



1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア	自営業	17
イ	勤め(全日)	20
ウ	勤め(パート・臨時)	23
エ	学生	6
オ	専業主婦	29
カ	無職	44
キ	その他	10
	無記入	2

■1) その他に当てはまり、記入された内容
農業、委員

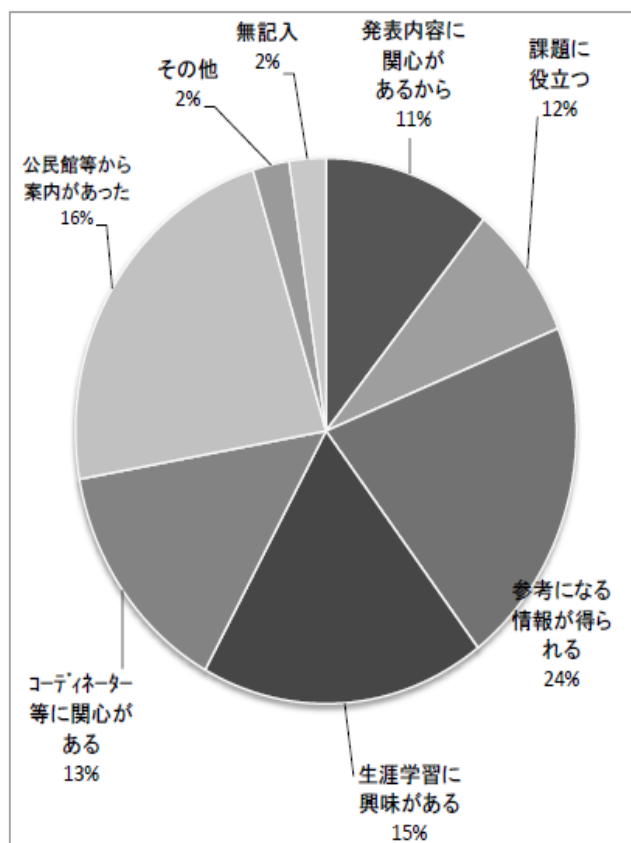
2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア	チラシ	6
イ	知人・友人からの案内	28
ウ	新聞記事	17
エ	学校からの案内	7
オ	公民館からの案内	50
カ	所属団体からの案内	51
キ	その他	9
	無記入	0
	二つ回答	17

■2) その他に当てはまり、記入された内容
パネリスト家族、自治会、教育委員会

I 大会に参加した動機を教えてください。【複数回答可】

①	発表内容に関心があるから	23
②	取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから	17
③	仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから	44
④	生涯学習全般に興味があるから	39
⑤	コーディネーター・パネリストに関心があるから	30
⑥	公民館や学校等から案内があったから	49
⑦	その他	5
	無記入	5
	二つ以上回答	61

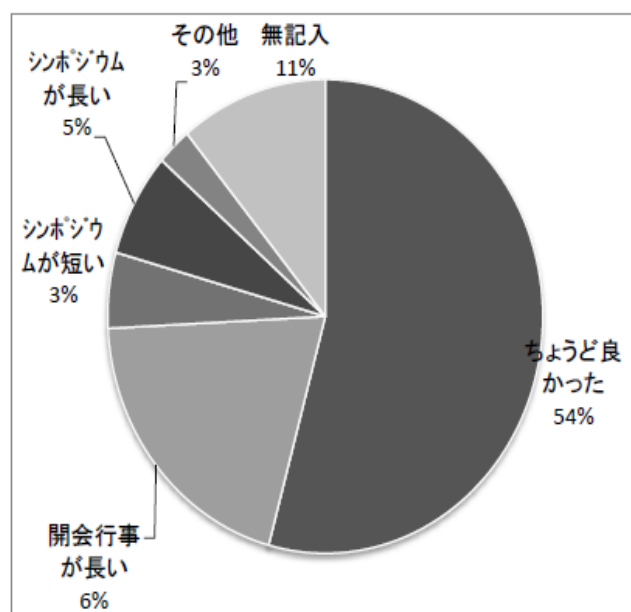


■その他に当てはまり、記入された内容

- ・ 出席者を車に乗せてきた
- ・ 自分のためになる

II 全体構成や日時設定について【複数回答可】

①	ちょうど良かった	84
②	開会行事が長すぎる	31
③	シンポジウムが短すぎる	8
④	シンポジウムが長すぎる	11
⑤	その他	4
	無記入	17
	二つ以上回答	4

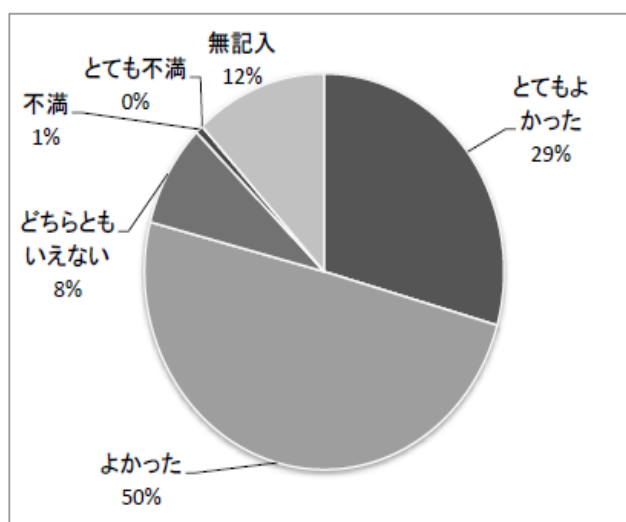


■その他に記入された内容

- ・ 段取りをもう少しスムーズにする。
- ・ 時間設定がまずい。

Ⅲ 今回の大会は、全体としていかがでしたか？

① とてもよかった	42
② よかった	71
③ どちらともいえない	12
④ 不満だった	1
⑤ とても不満だった	0
無記入	17



■ 上記を選んだ理由

・ 若い人の発表に刺激を受けました。
・ 大月市に焦点を当てている点良かったため。
・ 年齢的に無縁の事に触れることが出来た。
・ 生涯学習の意味を改めて認識した。
・ パワーポイントでわかりやすくよかった。特に大月短大生の話には私も外に出て皆さんと交わりたいと思う。
・ 他にイベントがあると思う。
・ 大月市について、現状について理解できた。
・ 呼びかけがなければ、益々消極的になり、家にこもりがちとなる。外に出る、出す、交流がもてる様になれば健康的にすごせる。
・ 世代間交流の内容がよくわかった。
・ 短大生の発表が良かった。
・ 今の時代に合った求めているテーマであったのか。
・ 学生さんの発信している提言が嬉しかった。発表もはっきりしていて良かった。
・ 現実に実践していること、また、方向性も理解できたので。
・ 大月市の高齢化について考え、進む力をどうすればいいか考えていく良い機会になる。
・ 短大生のプレゼンは分かりやすく良かった。
・ 勉強になりました。
・ とりあえず勉強になりました。但し、長時間座っていて膝が痛くなった。休憩を入れてほしい。
・ 大月市のこれからについて考える機会を与えられた。
・ 短大生の市内活動にもう少し興味を持ってほしい。

・ パネリストの事例発表が長すぎた。
・ 学生さんの発表があり、良かった。時間が押して、議論の時間が少なくなってしまった。
・ 山との共生、山の活用は良いと思います。
・ 市民の周知の為に防災放送を活用したい。市広報だけでは無理。
・ パネリストの三人の活動内容が良くわかりました。
・ 世代間交流はとても素晴らしいと思いますが、どのようにして良いか考えることは難しい。
・ 三人のパネリストの個性があらわれた良い発表会でした。
・ パネリストの話がとても勉強になったから。
・ 学生さんの意見が聞けたのが良かった。
・ 特に若い世代からの提言が心強く新鮮で良かった。
・ シンポジウム後の討論時間が短い。
・ 短大生が参加して潤いが出た。
・ 何を訴えたいのかわからない。
・ 時間設定がダメ。
・ 市民に各地域の問題点や世代間の連携の重要性。
・ 粋な心で心豊かに過ごしていける。
・ 自分も組織の中で活動しているので、通じる場所があったので、他の人達にもPRできたのではないかな。
・ もっと塙先生の講演が長ければ良かった。
・ 初めて参加しました。参考になりました。
・ 大月市を多面的視点から見た大月短大生の発表は新鮮だった。世代間交流で高齢者の経験や知恵を活用する場を大切にしたい。
・ 特に短大生の提案が今後の大月に大切だと思います。
・ 若者の意見は特に参考になった。
・ 和田さんの発表が優れていた。
・ 特に世代間交流を活発にすることの重要性を発表されたこと。
・ 参考になることがあったので。
・ 私の地区でも高齢者の独り暮らしが多くなっています。地区役員としては3人のパネリストの内容は大変勉強になった。
・ パネリスト三名の内容がとても良かった。
・ 大月短大の学生さんと交流を持てるようになればうれしい。
・ スポーツを通しての志村さんのシンポジウムは楽しかった。
・ 学生さんの声を聞きとてもうれしかった。きっかけがつかめなっていたので、今日は出席してよかった。

■ 自由記入欄(感想または、今後採りあげてほしい課題等)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで外に出かけて、観て聞き参加する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年々、参加者が少なくなっている気がします。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3人の活動が共通していて今後役立てて行ければいいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人々が若者との交流を望んでいることがわかり、自分なりに考えていきたいと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 友人も誘い地域に参加したいと思います。また、短大生との交流の機会を作ってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて参加させて頂き、大変良い内容で良かったです。ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 40～60代の方にもっと参加してもらいたい。若い人が大月のこれからを考えていかなければならないと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い学生が大月を考えていることがとてもうれしかったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い学生の力を借りてもっと交流し、楽しい人生を送っていけるように望みます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別訪問してアンケート、データが良くまとめてありました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各公民館の実態を発表し、問題点を掘り起こして行く等、地に足が付いた大会であってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3人のパネリストの皆さんお疲れ様でした。塙先生はさすが専門化です、まとめの話が心に響きました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市として住民にもっと関心を持てるよう情報発信してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化の実情をみて、これからの生活に非常に不安を感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校高学年生ぐらいの参加ができるようにならないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間が長い。サロンという名称になじめない。塙先生の話をもっと聞きたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ いきいきサロンのボランティアをしています。サロンに参加することは、何よりも自分自身のためになっていると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 都留市にも都留文大があり、全国から学生さんたちが社協さんにつながりとても活躍してくれています。特に三年前の大雪の時は、サテライトの開設をしてとても活動的でした。大月短大の学生さんにも期待しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ この場限りのことが多いが、必ず歩み出せるように、向かえるようにしたいものです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者が高齢者で固まっている。短大生のゼミも良いが若年世代への参加を考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 解決策はなかなか難しいと思うが各パネラーの趣旨に対する結論がわかりやすくまとめられると有難いと感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間が長くなってしまいうので、時間オーバーしてしまった時の配慮をもう少ししてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者が住みたくなるような市にするには…。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化活動にもっと参加してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーターの先生がわかりやすく良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の提案がすごく具体的で話の先が見えるような気がしました。世代間交流の必要性は実感しました。昔はあった地域での交流が衰えているので新たなものが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減の大月市をなんとかしたいですね。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 男性の合唱がとても素敵でした。若い世代の意見を聞いてくださる大月はよい町だと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習推進するための公共交通手段等のインフラ整備が必要。加えて人口流出防止のための施策が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ せっかくのイベントを関係者のみではさみしい。地域包括ケアシステム構築への重要なイベントである。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年も塙先生のコーディネーターが大変良かったですが、今年もより一層進行が良かったです。短大の先生のレベルの高さがわかりました。学生さんの参加も良かったです。ますます地域が活性化することを望みます。新しい試みもあり、大会自体も進化していますね。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生さんは一年生にもかかわらず、素晴らしい成果を上げられていて驚きました。大月短大の学生さんは優秀だったんですね。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 短大の存在意義が感じられた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 世代間交流についての和田さんの意見は参考になりました。市側で短大生を活用する方策をもっと増やしてほしいです。せっかくの大会なのに、参加者が今年は少なくて残念です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会行事25分を15分くらいでよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月を見つめ直す良い機会になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ やはり交流は大切だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 世代間の交流を通して、地域の活性化を図っていくのは、大変大事で夢がある取り組みだと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三分野ともに地域で活躍されている方の実践報告は大変有意義なりポートでした。特に短大生の報告は良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月市における男女共同参画の現状について。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人大学なみの年齢層。若い人の関心のある内容もできないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 男性コーラスが良かった。時間前で少人数の人でもったいなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者が参加するような大会にしてほしい。和田さんの世代間交流は素晴らしかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月を良くしようというボランティア活動をこれからも続けていくことが良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 世代間の意見が多くの市民に伝わるシンポジウム。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 期待外れ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者に元気で長生きしていただくことは大切ですが、今日の場にもっと若い人が参加するように働きかけが大事だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ カジカについてはきちんとした枠の中で発表させてあげた方がよい。会場に出たり入ったり、話声等ざわついており、かわいそうでした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリストの発表が良かった。(3名とも)
<ul style="list-style-type: none"> ・ もう少し具体的な交流方法が必要か？世代間交流。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の説明が長すぎたと思います。地域ごとに指導者を育てなければ出来ませんね。
<ul style="list-style-type: none"> ・ サロンのボランティアをしているが、月一回では少ないと思うが、それをどのように回数を増やすかが分からない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ もう少し多数の方に参加してほしい。周知方法をもう少し考えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の元気な高齢な人を募り、助けてもらう。仕事を見つけ手伝ってもらう。

第55回大月市生涯学習推進大会の様子

【市民会館1階 大ホール】



アトラクション 合唱：桂川グリーカジカ

【開会式】



開会
(中村 社教委会長)



主催者あいさつ
(小泉教育長)



励ましのことば
(石井市長)



来賓祝辞
(小林副議長)



シンポジウム「見つめよう！地域の力」～粹な心で豊かな暮らしをパートⅡ～



コーディネーター 堀 先生



3人のパネリスト



パネリストや会場との対話



西山扇山部分林管理委員会 佐藤 様



梁川体育会 志村 様



閉会式
(加納 公連会長)



会場との対話



大月短大1年生・堀ゼミ 和田 様

【1階展示室】



公民館や社会教育施設の活動展示

【1階ロビー】



大月大豆倶楽部さんの納豆販売



笹子町林業研究会さんの木工品販売



めばえ福祉作業所さんの焼き菓子販売

